

ねん がつ にち
2023年1月22日

ねんかんたい しゅじつ かみ しゅじつ
年間第3主日（神のことばの主日）

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

ことし ねんかんたいさんしゅじつ がつ にち きょうこう さだ かみ
今年の年間第3主日である1月22日は、教皇フランシスコによって定められた「神のこ
とばの主日」です。加えて教会は、1月18日から、パウロの回心の記念日である1月25日
まで、キリスト教諸教派とともに、キリスト教一致祈禱週間と定めています。

ことし きょういつち きとうしゅうかん ぜん おこな せいぎ おもと
今年のキリスト教一致祈禱週間は、そのテーマを「善を行い、正義を追い求めなさい」
というイザヤ書のことばかが採用され、一人ひとりのいのちの尊厳が守られる社会の確立
のために、神の正義と平和を確立する道をとともに見いだすことを呼びかけています。

だいに こうかいぎ かん きょうれい しゅ せつりつ きょうかい
第二バチカン公会議のエキュメニズムに関する教令は、「主キリストが設立した教会は
単一・唯一のものである」と宣言します。しかし現状はそうではないことを指摘しながら
ら、同教令は、「このような分裂は真に明らかにキリストの意思に反し、また世にとっ
てはつまずきであり、すべての造られたものに福音を宣べ伝えるというもつとも聖なる
大義にとっては妨げとなっている(1)」と厳しく指摘しています。その上で、真摯な対話
を通じて互いの心の回心にいたり、祈りの内に一致し、信仰の宣言の上でも社会での愛
の証しにおいても協力する道を模索するように呼びかけています。

ふくいん こうせいかつ はじ びょうしゃ
マタイによる福音は、イエスの公生活の始まりを描写しています。

く あらた てん くに ちか つた かつどう ささ あゆ でし
「悔い改めよ。天の国は近づいた」と伝えるイエスの活動は、それを支え、ともに歩む弟子
たちを召し出すことから始まりました。ガリラヤ湖畔でイエスは漁師であったペトロと
呼ばれるシモンとその兄弟アンデレに、「わたしについてきなさい。人間をとる漁師に
しよう」と呼びかけます。さらにはゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネにも声をかけ
られます。二人ずつ四人を召し出すこの物語は、イエスの福音宣教の業が、常に共同体
の業として遂行されることを象徴しています。いまなおイエスは「私についてきな
さい。人間をとる漁師にしよう」を多くの人に声をかけ続けておられます。ただ、司祭
になることだけが、この呼びかけに応える道ではありません。教会にはカテキスタなど、

しんと かた は ふくいんせんきょう わざ おお
信徒の方にも果たしていただける福音宣教の業が多くあります。

だいに こうかい ぎ けいじ けんしょう する
第二バチカン公会議の啓示憲章には、こう記されています。

「^{きょうかい}教会は、^{しゅ おん}主の御からだそのものと同じように^{おな}聖書をつねにあがめ^{せいしょ}敬^{うやま}ってき〔まし〕
た。なぜなら、^{きょうかい}教会は何よりもまず^{せい}聖なる^{てんれい}典礼において、たえず^{どうじ}キリストのからだと同時
に^{かみ}神の^{しよくたく}ことばの^う食卓^とからいのちの^{しんじゃ}パンを受け取り、^さ信者^だたちに^さ差し出してきたからで
〔す〕」(『^{けいじ けんしょう}啓示憲章』 21)。

そう^{かんが}考えると、^{とき}ミサの^{せいしろうどく}時の^{ほうし}聖書朗読の^{たん やくめ}奉仕も、単に^は役目を果たしているだけでなく、^{げんぞん}現存
される^{かみ}神の^{かた}ことばを^{もの}語る者としての^{じゅうようせい}重要性が^{り かい}理解されるとおもいます。主の^{おも}呼びかけに^{しゅ}応
えて、それぞれの^{やくわり}役割を^は果たしていきましょう。